



修学旅行を通しての国際理解の取組

「世界の同世代の現状を知ろう」

報告者 京都府宮津市立養老中学校 香月義久先生

ポイント

宮津市立養老中学校では、総合的な学習の時間に国際理解を位置づけ、3年生の5月に東京方面の修学旅行時に学習を深化させるように取り組んでいます。これまで、隔年で「ユニセフハウス」を訪問し、先輩たちの報告を聞いて、ある程度の知識や関心は持っていました。19年度3年生は、前年度1月より、国際理解について東京で学び体験できることを調べ始め、同世代の子どもの現状を学び体験できる「ユニセフハウス」で、自分たちに何ができるのかを考え、深めたいと希望しました。

1 事前の学習

ユニセフハウスの開設の目的は何か、ユニセフとはどういうことを目的としたどのような活動を行う組織か、ユニセフの活動・ユニセフハウスについて、質問や話を聞きたいこと等の調べ学習をしました。

2 ユニセフハウス訪問

水さえも安心して飲めない環境、家族を守るため戦場に行く少年兵の存在など、数多くの世界の現状は調べ学習以上に強い衝撃を受けるものでした。あわせて、物を大切に使うことや、貧しい国への支援のために出来ることを学びました。



3 事後の学習

修学旅行のまとめを冊子にし、1・2年生の学級にも置き、読んでもらえるようにしました。

4 これまでの取り組み

過去1年間、生徒会が1月に「書き損じはがき集め」を校内だけでなく、校区の方にも呼びかけました。集まったはがきは宮津市社会福祉協議会にお願いし換金してもらい、半分を宮津市の社会福祉の向上に、半分をユニセフに募金していました。19年度は、集まった枚数が少なく、宮津市にだけ募金したこともあり、現在、新しい取り組み方を生徒会中心に検討中です。

生徒の感想（修学旅行のまとめから抜粋）

ユニセフとは、世界の子どものために活動する国際連合の機関です。第二次世界大戦で被災した子どもへ緊急援助を行うことを目的に、1946年の第一回国連総会で創設されました。現在、ユニセフは、「児童の権利に関する条約」で定められている子どもの「生存」、「発達」、「保護」、「参加」の権利を実現するため、保健、水と衛生、栄養、教育への支援、困難な状況にある子どもの保護、緊急事態下の子どもの支援を、156の国と地域でその国の政府やNGO、地域の人々と協力しながら実施しています。

ユニセフの支援は、①5歳の誕生日をむかえるまでに命を失う子どもの割合、②国民一人あたりの所得、③子ども（18歳未満）の人口、の3つを基準にして決められています。

展示スペースには大きく4つのスペースがあり、開発途上国の保健センターについての部屋の中にはいろいろな国の母子手帳があったり、実際に使っている水がめを持ってみる事ができました。ユニセフの支援する教室では、教科書のかわりに布を使っていることが分かりました。